

清流

創造的復興に向けて

「新年 あけましておめでとうございます。
今年も昨年同様、どうぞよろしく願いいたします。」

今年のお正月は天候にも恵まれ、穏やかで明るいお正月となりました。きっと、保護者の方々のご家庭も素晴らしいお正月を過ごされたこととお慶び申し上げます。

そんな穏やかで明るいお正月を過ごしていた3日の夜、かなり大きな揺れとともに、家族それぞれの携帯から緊急地震速報のアラームが大きく鳴り響いたのには本当にびっくりしました。大きな被害はなかったものの、あのアラーム音を聞くと嫌な記憶がどうしても思い返されます。地震が収まってからも、また大きな地震が来るかもしれないという警戒心が解けない自分がいました。希望を胸にした新年スタートの時期でしたが、心の面も含め、まだ「熊本地震」からの復興途中であることを改めて突きつけられた気がしました。二年前のこの時期には、前任校(高森東小)で次のような学校だよりを書いていました。

この冬休みから、熊本の自宅との往復は「俵山ルート」が使えるようになりました。単身赴任のために使っている私などより、保護者の方々の方が何倍も開通を切望されていたルートだと思えます。私の場合、時間が大幅に短縮されたわけではありません。しかし、グリーンロードを通るたびに地震の影響が深く、そして未だに続いていることを思い知らされ、冠ヶ岳近くでは標高1000m以上になるアップダウンとカーブの多さに、時間以上の疲れを感じていた私にとっては本当に嬉しい再開でした。

開通後、何度か俵山ルートを通っていると南阿蘇村の道路沿いの二ヶ所に手作りの看板が立っていることに気づきました。その看板にはこう書いてあります。

道路工事をされている皆様へ、24時間ありがとう。感謝いたします。

たったの8ヶ月であれだけの道路を作り上げることが並大抵の工事でなかったことは、素人の私でも想像がつかます。この看板は、その工事に携わっているの方々に対する地域の方々の感謝の思いから立てられたのだと思えます。その感謝の思いをしっかりと受け止めながら、工事関係者の方々には昼夜を通した工事を続けられ、12月中の開通にこぎつけることができたのでしょうか。

また、上記俵山ルート開通以上に交通面での復興が待たれているのが「二重峠トンネル」と「新阿蘇大橋」の完成だと思えます。気になったのでHPで調べてみたところ、二重峠トンネルは昨年12月1日時点で、本坑の掘削が92%も終了しているそうです。もちろん、掘削だけですから、トンネルとして仕上げるにはまだまだ時間が必要だと思えます。また、新阿蘇大橋の方は12月21日時点の写真が掲載されており、橋の両岸ともに橋脚や取り付け道路ができています。計画ではどちらも2020年度中の開通を目指しているとのこと。俵山ルートと同様にどちらも24時間体制の工事が続けられているのだそうです。このように、多くの方々の努力と苦勞で、復興は以前にも増して利便性や安全性が高い創造的なものとして行われています。

復興という面では、私たち甲佐小職員にできることは多くありません。できるのは、子どもたちとの日々を充実したものにするのと、子どもたちの成長や頑張りを町や地域の元気につなげることくらいです。しかし、それらがきっと熊本の創造的な復興の一助にはなっていると確信しながら進んでいきたいと思えます。今回の地震を機会に、こんなことを考えたお正月でした。

2019年が熊本の明るい未来へとつながる年になることを心から願っております。